

世界文学
鑑賞辞典

II

フランス
南欧古典

世界文学鑑賞辞典

フランス 南欧 古典

根津憲三編

東京堂出版

編者略歴

一八五五年

東京に生まれ、新潟県柏崎市に育つ。

一八六六年

早稲田大学文学部仏文学科卒、早稲田大学文学部教授。

現在著書

訳書

「日ル辞典」(共著)

ジード「コンゴ紀行」、フランス「寒屋裏の話」「神々は渴く」

世界文学鑑賞辞典

フランス・古典・南欧編

定価二八〇〇円

昭和三八年五月二五日 初版発行
昭和五四年八月二〇日 一二版発行

編者 根津 憲三

発行者 岩出 貞夫

印刷所 図書印刷株式会社

製本所 渡辺製本株式会社

発行所 株式会社 東京堂出版

東京都千代田区神田錦町三ノ七(千〇二)
電話 東京 三三二五 振替 東京 三三三〇

序 文

文学への接近は美的感動に発し、文学の理解は作品の鑑賞にはじまる。近年、読者の量と質がいちじるしく増加向上してくるにつれて、外国文学の紹介・翻訳もまたおびたしい。それらの芸術的所産を目の前にして、あれこれと立ち迷うことなく、これを心の教養として素直に受け入れ、さらに独自の創造へ転化するのが好ましい。そのためには、それ相應の準備と操作が必要であり、指針として、文学の歴史と理論と批評にもとづく鑑賞が要求される。

『世界文学鑑賞辞典』全四巻はこの要求にこたえて、文学的教養から創造へのかけ橋ともなるように意図されたが、もとより文学の鑑賞はつねに作品と読者の相対的關係にあつて、これが唯一のものと限定されるべきではない。編者は鑑賞の主観的独断におちいることをおそれて、項目の執筆にはそれぞれの専門家を依頼し、最近の研究・学説を十分にとり入れた学問的基盤に立った上で、客観的な評価の決定にいたる、作品鑑賞の態度と方法と基準とを提供しようとした。

『世界文学鑑賞辞典』はわが国の慣用にしたがつて、もっぱら西洋文学を対象とし、歴史的には上代ギリシア、ローマの文学から第二次大戦後の最近の文学まで、詩歌・小説・戯曲・評論・随筆・伝記等のすべてのジャンルをふくめ、イギリス、アメリカ、フランス、ドイツ、ロシアはもとより、北欧、中欧、南欧にわたっている。輝しい文学的所産を可能なかぎり正しい姿で伝えるために、その作品の成立・刊行に関しては必要な場合は文献学的解説を、小説、戯曲、叙事詩等のプロットについては梗概を、作品の創作動機、主題の解明、文体の特質、創作過程の心理的様相、社会的・文化史的意義などを鑑賞としてそれぞれ記述し、作者小伝を附して、文学的知識と文学的鑑賞の統一にも力をそそいだ。

編者のもっとも苦心したのは、この種辞典の生命ともいふべき作品項目の選定であつた。すでにこれまでも名著解題、名作辞典のたぐいには、アメリカの例をとればフランク・マギル『世界文学傑作解題』、ヘレン・ケラー『名著解説』、ローランド・グッドマン『名作小説梗概百篇』、ヴァン・カートメル『名作戯曲梗概百篇』等があり、それらを参照するかたわら、もっぱらわが国における条件を考慮し、一般読者に親しみ深い作品を中心に、文学史的意義ある、価値高い作品を採り上げ、年代順にこれを見れば、作家・作品を通じて、文学の史的な流れを概観できるような意図もふくめている。

編者の意図がどこまで達せられたかは大方の批判をまつほかはないが、時日と紙数、当今の出版事情といった外的な条件はあつたものの、編者が最善・細心をつくして、なお物足らぬ不安があり、多くの不備や誤りは免れない。御教示、御叱正を得て、今後機会あるたびに訂正増補につとめるのは、編者の当然の義務であらう。

『世界文学鑑賞辞典』が一般読者にとって文学理解への手引き、教養への一助ともなり、教授者の参考、専門家諸氏の忘備ともなり得れば、この辞典の目的は達せられたものと言わねばならない。

刊行に当って、東京堂取締役出版部長・増山新一氏、編集課長・石井良介氏、編集部・西哲生氏をわずらわせるところ大きく、感謝申し上げる。

一九六二年五月五日

鈴木幸夫
根津憲三
小口優
黒田辰男

は し が き

『世界文学鑑賞辞典』のフランス・南欧・古典編は、前掲の序文にのべられてある編集方針に従ってフランス文学（ベルギー文学をも含む）、イタリア文学、スペイン文学、ギリシア・ローマの古典文学、その他のなかから、特にわが国の読者によつて親しまれている作品二九八編を選び、それらの作品の梗概を紹介し、それらを正しく理解し、味読するに必要な分析、解釈を施して、一般読者の作品鑑賞の一助となるように心がけて作られた。

フランス・南欧・古典編とはいつても、本編ではフランス文学が中心となつてゐる。わが国における外国文学普及の現状から、この辞典では、フランス文学に大部分のページがさかれ、イタリア文学、スペイン文学、ギリシア・ローマ古典文学においては、それらのなかから極めて主要なもののみを選ぶにとどめなければならなかつた。フランス文学に関しては、わが国に紹介されているものだけでも、中世から現代にかけ、実におびただしい数にのぼつてゐるので、それらのなかから、限られたものを選び出すことには非常な困難がともなつた。まず、邦訳のあるもののなかから優先的に選ぶ方針をとつたが、邦訳がなくても、フランス文学史上看過しがたい重要性をもつものは、これを採用することにした。鑑賞辞典であるから、論文のようなものはなるべくさけた。たとえば、ポアローの『詩学』などは、フランス文学史上重要な著作であることは論をまたないが、鑑賞辞典の性質上、これを割愛せざるを得なかつた。ジャン・ジャック・ルソーにしても、『人間不平等論』をさけ、『エミール』『ヌーヴェル・エロイズ』『告白録』が選ばれ、スタール夫人にしても、『文学論』『ドイツ論』が主著であらうが、小説『コリンヌ』が選ばれた。

欧文の固有名詞その他の仮名がきは、大体において慣習に従つたが、東京堂発行の『世界文芸辞典』（西洋

編)のフランスの部分の例にならった。この辞典の併用をおすすめしたいからである。たとえば、Paul (ポール)、Gide (ジード)、Proust (プルースト)、Duhamel (デュアメル)、Voiture (ヴォアテール)、Albertine (アルベルティーン)、Mauriac (モーリアック)というときである。

本編の各項目は、ギリシア・ローマの古典の部の早稲田大学教授 有田潤、講師 久保正彰の両氏をはじめとし、その他の部分では、早稲田大学助教授 稲田三吉、講師 窪田般弥、安堂信也、小林路易、平岡篤頼、清水茂、安斎千秋、井上登、早稲田大学高等学院講師 加藤民男、武蔵野美術大学講師 土屋博正、玉川大学講師 加藤尚広の諸氏や、その他新進気鋭の研究者として、早稲田大学の大学院出身者および在籍者である、森乾、中村三郎、佐藤実枝、中島公子、伊藤洋、植田裕次、杉沢和雄、中原好文、堀田郷弘、竹内迪也の諸氏の執筆に負うた。この辞典では、若干の例外を除いては、いわゆるその道の大家をわずらわすことなく、主として、研究心と熱意に燃え、常に現代に対して深い関心をもつ若き世代の研究者に執筆をお願いすることにした。執筆にあたつて、これらの諸氏が示されたなみなみならぬ熱意と努力と、好意ある協力に対しては、ただただ編者として心からの謝意を表するよりほかないのである。

この辞典は高度の専門家を対象として作られたものではなく、むしろ一般読者を目標とし、フランス・南欧・古典の作品をひもとく場合に、読者がその作品をよりよく理解し、よく深く鑑賞出来るための一助となり得ることを願いながら作られたものである。もしこの辞典が読者諸氏に対し、フランス・南欧・古典の文学作品について一そうの興味を喚起する機縁となれば幸いである。

編者の注意と努力にもかかわらず、いくたの誤解や欠点があることが恐れられるが、幸いに大かたの御教示を賜われれば、将来より完全な辞典に発展させたいと願っている。

一九六三年四月三〇日

凡 例

▽本書は、古代から現代にいたる、フランス文学・南欧文学、および、ギリシア・ローマの古典文学その他の作品、二九八をえらび、各作品に鑑賞をほどこすことを主眼とした。『千一夜物語』（アラビアン・ナイト）は便宜上、本書に編入した。

▽小説・戯曲の場合は、「梗概」を設け「鑑賞」の一助とした。作品集（詩集・短編小説集・日記・隨筆集など）を項目とした場合は、その中の代表的な作品を取りあげて解説・鑑賞をほどこした。

▽項目は、各作品を五十音順に配列した。作家名の方から作品を検出するときは、巻頭の作家別項目表または巻末の人名索引から検出する。

▽見出しは、作品名（邦訳名）であらわし、以下、原書名、発表年代、作者名、作者国籍、作者原名、作品形態、の順にしるした。ただし、国籍がフランスのものは、作者国籍をはぶいた。国名として用いた略字は、次のとおりである。希（＝ギリシア）、羅（＝ローマ）、伊（＝イタリア）、西（＝スペイン）、蘭（＝オランダ）、白（＝ベルギー）。

▽作品の邦訳名は、一般に通用している訳名のある場合

には、できるかぎりそれを採用した。幾とおりかの訳名が用いられている作品には、それらの訳名をもあげて、検出のための便をはかった。

▽各作家の略伝は、作品のあとに「作者」として付し、略歴および主要作品などをあげるにとどめた。ただし一作家で二作品以上収載した場合の略伝は、そのうちの一作目をえらび、その末尾に付した。たとえば、スタンダールの場合、『恋愛論』『赤と黒』『イタリア年代記』『バルムの僧院』『リュシアン・ルーヴェン』を収めたが、その略伝は『赤と黒』の項の末尾に付した。

▽引用文は、訳者名を明記した場合、原則として訳文のままにした。詩の引用は、△△で示した。とくに代表作品を解説・鑑賞するときは、これを別行に示し、△△△はふいた。

▽表記については、当用漢字・現代かなづかいによったが、難読の語など、やむを得ぬものにはルビを付し、読みやすくすることにつとめた。

▽作品名・人名・地名などのカタカナ表記は、原則として、その国の呼びかたによってしるしたが、慣用の固定しているものは、それに従った。ただし、ヂ・ヅ・ヰ・エ・ヲ、はそれぞれ、ジ・ズ・イ・エ・オ、と改めた。

▽作品名・書名・雑誌名・新聞名には、すべて「」をつけた。

▽本文中に*印のある作品名は、独立項目として収録されていることを示す。

▽索引は、「人名索引」と「作品・事項索引」とに分けた。

▽五十音順配列の順序の細部は、すべて長音・濁音・半濁音を無視して配列した。また促音・拗音および発音をおぎなうためのカタカナ小文字は、一音とした。

▽おもな符号は、次のとおりである。↓(を見よ)

ゝ(何年から何年まで) C.(何年ごろ) ?(年代不明)

世界文学鑑賞辞典

フランス・南欧・古典編

作家別項目表 (五十音順)

△印は、二作品以上収録した場合に、
「作者」略伝をつけた作品を示す。
古典文学の項目表は末尾に付した。

(ページ)

アシャー	「お月様のジャン」……………	九
アダン・ド・ラ・アル	「葉蔭の劇」……………	三七〇
「ロバンとマリオン」の劇……………	五〇三	
アヌーイ	「泥棒たちの舞踏会」……………	三三三
△「アンティゴニス」……………	三七	
アポリネール	「異端教祖株式会社」……………	三三
アミエル	「アミエルの日記」……………	三三
アラゴン	「コミニニスト」……………	一八〇
アラルコン・イ・アリサ	「三角帽子」……………	二〇六
アラルコン・イ・メンドーサ	「疑わしき真実」……………	七二
アラン・フールニエ		

「モーヌの大將」……………	四七〇
アリオスト	
「狂えるオルランド」……………	一六
アルラン	
「秩序」……………	三〇
イバーニエス	
「血と砂」……………	三三
ヴァレリー	
△「テスト氏との一夜」……………	三六
「若きパルク」……………	五〇七
「魅惑」……………	四九
ヴィニ	
「チャタートン」……………	三三
△「軍隊の服従と偉大」……………	一七
「牧人の家」……………	四三
ヴィヨ	
「遺言書」……………	四〇
ヴィリエ・ド・リラダン	
△「残酷物語」……………	三七

「未来のイヴ」……………	四六	
ヴィルドラック	「商船テナンティ」……………	二四六
ヴェルラン	「触手ある都会」……………	二四〇
ヴェルコール	「海の沈黙」……………	三
ヴェルレーヌ	「叢智」……………	七四
ヴォルテール	「ザイール」……………	一五五
△「カンデイル」……………	一四一	
エチエガライ	「恐ろしき媒」……………	九七
エモン	「白き処女地」……………	二五五
エラスムス	「愚神礼賛」……………	一五
エルヴィユ	「炬火おくり」……………	二九七
オノレ・デュルフェ	「アストレ」……………	二五
カザノヴァ	「カザノヴァ情史」……………	一三
カミユ	△「異邦人」……………	六

「ベスト」……………	四九
「正義の人々」……………	三五
カルデロン……………	三五
△「人生は夢」……………	二〇三
△「サラメアの村長」……………	二〇三
キユレル……………	二六
△「新しき偶像」……………	二六
ギヨーム・ド・ロリス……………	三七
「薔薇物語」……………	三七
グリーン……………	四四
「真夜中」……………	四四
クローデル……………	四六
△「マリアへのお告げ」……………	四六
△「綿子の靴」……………	四二
△「クリストファ・コロンプ」……………	四二
△「スの書」……………	一五
ゲオルギウ……………	三五
△「二十五時」……………	三五
ケッセル……………	三九
△「昼顔」……………	三九
コクトー……………	四七
△「山師トマ」……………	四七
△「恐るべき子供たち」……………	五五
△「恐るべき親たち」……………	五五
ゴティエ……………	四三
△「モーパン嬢」……………	四三

ゴールドーニ……………	四七
△「宿屋の女主人」……………	四七
コルネーユ……………	四九
△「ル・シッド」……………	四九
△「オラーヌ」……………	一〇五
△「シンナ」……………	二六六
△「ポリウクト」……………	四四
コレット……………	四四
△「青い麦」……………	一六
△「牝猫」……………	四三
ゴンクール……………	四三
△「ジュルミニー・ラセル」……………	四三
△「トゥー」……………	三三
△「ゴンクールの日記」……………	一八
コンスタン……………	一八
△「アドルフ」……………	二九
サガン……………	二九
△「悲しみよこんにちは」……………	二五
サラクル……………	二五
△「地球は丸い」……………	三〇
△「神は知っていた」……………	三〇
サルトル……………	三〇
△「嘔吐」……………	九
△「汚れた手」……………	四四
△「悪魔と神」……………	三三
△「自由への道」……………	三六

サロート……………	四二
△「プラネタリウム」……………	四二
サン・テグジュペリ……………	四二
△「夜間飛行」……………	四七
△「城砦」……………	二五
サン・ド……………	二五
△「魔の沼」……………	四一
△「愛の妖精」……………	九
サント・ブーヴ……………	九
△「愛欲」……………	一〇
ジード……………	一〇
△「アンドレ・ワルテルの手記・詩」……………	四一
△「背徳者」……………	三八
△「狭き門」……………	三八
△「法王庁の抜け穴」……………	四九
△「田園交響楽」……………	三三
△「賈金つくり」……………	三六
シャトーブリアン……………	三六
△「アタラ」……………	二六
△「ルネ」……………	四六
シャルドンヌ……………	四六
△「祝婚歌」……………	三三
ジャン・ド・マン……………	三三
△「薔薇物語」……………	三七
ジロドゥー……………	三七

作家別項目表

「北ホテル」……………	一四四	「新生」……………	一六三
「死の勝利」……………	一四四	「神曲」……………	一五九
「救われたイエルサレム」……………	一六六	「ラモアの甥」……………	一四九
「獣人」……………	一四四	「セビリアの色事師と石の客人」……………	一六三
「タツソー」……………	一四四	「サラヴァンの生涯と冒険」……………	一六三
「死の勝利」……………	一四四	「バスキエ家年代記」……………	一七三
「北ホテル」……………	一四四	「樺姫」……………	一三九
「死の勝利」……………	一四四	「デューマ・フェイス」……………	一七三
「救われたイエルサレム」……………	一六六	「三銃士」……………	一四九
「獣人」……………	一四四	「モンテ・クリスト伯」……………	一四九
「タツソー」……………	一四四	「風車小屋だより」……………	一四四
「死の勝利」……………	一四四	「プティ・ショーズ」……………	一四二
「北ホテル」……………	一四四	「タルタラン・ド・タラス」……………	一四二
「死の勝利」……………	一四四	「コンの冒険」……………	一四二
「救われたイエルサレム」……………	一六六	「月曜物語」……………	一四二
「獣人」……………	一四四	「木の十字架」……………	一四二
「タツソー」……………	一四四	「蜘蛛」……………	一四二
「死の勝利」……………	一四四		

「北ホテル」……………	一四四	「ナヴァール」……………	一六三
「死の勝利」……………	一四四	「エプタメロン」……………	一六三
「救われたイエルサレム」……………	一六六	「火の娘」……………	一六三
「獣人」……………	一四四	「バスカル」……………	一六三
「タツソー」……………	一四四	「パンセ」……………	一六三
「死の勝利」……………	一四四	「パニョル」……………	一六三
「北ホテル」……………	一四四	「トパーズ」……………	一六三
「死の勝利」……………	一四四	「バルザック」……………	一六三
「救われたイエルサレム」……………	一六六	「ウージェニー・グランデ」……………	一六三
「獣人」……………	一四四	「ゴリオ爺さん」……………	一六三
「タツソー」……………	一四四	「絶対の探求」……………	一六三
「死の勝利」……………	一四四	「谷間の百合」……………	一六三
「北ホテル」……………	一四四	「幻滅」……………	一六三
「死の勝利」……………	一四四	「従妹ベット」……………	一六三
「救われたイエルサレム」……………	一六六	「従兄ボンス」……………	一六三
「獣人」……………	一四四	「バルビュッス」……………	一六三
「タツソー」……………	一四四	「地獄」……………	一六三
「死の勝利」……………	一四四	「砲火」……………	一六三
「北ホテル」……………	一四四	「バレス」……………	一六三
「死の勝利」……………	一四四	「自我礼賛」……………	一六三
「救われたイエルサレム」……………	一六六	「コレット・ボードーシュ」……………	一六三
「獣人」……………	一四四	「心変わり」……………	一六三
「タツソー」……………	一四四	「ブランデルロ」……………	一六三
「死の勝利」……………	一四四	「死せるバスカル」……………	一六三
「北ホテル」……………	一四四		

「北ホテル」……………	一四四	「ナヴァール」……………	一六三
「死の勝利」……………	一四四	「エプタメロン」……………	一六三
「救われたイエルサレム」……………	一六六	「火の娘」……………	一六三
「獣人」……………	一四四	「バスカル」……………	一六三
「タツソー」……………	一四四	「パンセ」……………	一六三
「死の勝利」……………	一四四	「パニョル」……………	一六三
「北ホテル」……………	一四四	「トパーズ」……………	一六三
「死の勝利」……………	一四四	「バルザック」……………	一六三
「救われたイエルサレム」……………	一六六	「ウージェニー・グランデ」……………	一六三
「獣人」……………	一四四	「ゴリオ爺さん」……………	一六三
「タツソー」……………	一四四	「絶対の探求」……………	一六三
「死の勝利」……………	一四四	「谷間の百合」……………	一六三
「北ホテル」……………	一四四	「幻滅」……………	一六三
「死の勝利」……………	一四四	「従妹ベット」……………	一六三
「救われたイエルサレム」……………	一六六	「従兄ボンス」……………	一六三
「獣人」……………	一四四	「バルビュッス」……………	一六三
「タツソー」……………	一四四	「地獄」……………	一六三
「死の勝利」……………	一四四	「砲火」……………	一六三
「北ホテル」……………	一四四	「バレス」……………	一六三
「死の勝利」……………	一四四	「自我礼賛」……………	一六三
「救われたイエルサレム」……………	一六六	「コレット・ボードーシュ」……………	一六三
「獣人」……………	一四四	「心変わり」……………	一六三
「タツソー」……………	一四四	「ブランデルロ」……………	一六三
「死の勝利」……………	一四四	「死せるバスカル」……………	一六三
「北ホテル」……………	一四四		

△「作者を探す六人の登場人物」……………	一九九	「聖アントニアの誘惑」……………	二七〇	「バリの憂鬱」……………	三六
フィリップ		フロマンタン		ボーマルシェ	
△「ビュビュ・ド・モンパルナス」……………	三六六	「ドミニック」……………	三六六	「セビリアの理髪師」……………	二八五
「小さな町にて」……………	三〇七	ペーガ		△「フィガロの結婚」……………	四〇三
フェスロン		「セビリアの星」……………	二八三	ボルト・リーシュ	
「テレマックの冒険」……………	三三〇	ベケット		「過去」……………	一三
フランス		「ゴドーを待ちながら」……………	一七	マートルリンク	
「シルヴェストル・ボナー		ベック		「ペレアスとメリザンド」……………	四三
ルの罪」……………	五三	「鳥の群れ」……………	一三	△「青い鳥」……………	一四
「わが友の書」……………	五二〇	ペトラルカ		マラルメ	
△「タイース」……………	三六	「カンツォニエレ」……………	一四〇	△「半獣神の午後」……………	三六六
「神々は渴く」……………	一六	ベナベンテ		△「双翼一擲」……………	二九四
ブルジェ		「作り上げた利害」……………	三三七	マリヴオー	
「弟子」……………	三七	ベルナルダン・ド・サン・ピエール		△「愛と偶然の戯れ」……………	二
ブルースト		エール		「マリアンヌの生涯」……………	四八
「失われし時を求めて」……………	六	「ポールとヴィルジニー」……………	四七	マルタン・デュ・ガール	
ブルトン		ボイアルド		△「ジャン・バロア」……………	三三
「ナジャ」……………	三〇	「恋慕のオルランド」……………	五〇	△「ティボー家の人々」……………	三二
ブレヴォー		「招かれた女」……………	四九	マルロー	
△「マノン・レスコー」……………	四二	ボツカッチョ		△「征服者」……………	二六
フロベール		「デカメロン」……………	三三	「人間の条件」……………	三三
△「ボヴァリー夫人」……………	四七	ボデル		マンゾーニ	
「サランボー」……………	二〇四	「聖ニコラ劇」……………	二七六	ミユッセ	
「感情教育」……………	二六	ボードレール		△「マリアンヌの気まぐれ」……………	四七
		△「悪の華」……………	二	△「ロレンザッチョ」……………	五〇六

作家別項目表

「戯れに恋はすまじ」……………	三〇六	「ドン・ジュアン——石像 の饗宴」……………	三〇六	「反逆児」……………	三〇六
△「世紀児の告白」……………	二七三	「人間ざらい」……………	三〇〇	ラクロ	一四四
ミラボ！		「守銭奴」……………	三〇三	ラシーヌ	一四六
「小間使女の日記」……………	一六六	「町人貴族」……………	三〇五	「アンドロマック」……………	一四六
メリメ		「女学者」……………	二四四	「ブリタニキウス」……………	一四四
「モザイク」……………	四〇九	モーロア		「ベレニス」……………	四二五
「コロンバ」……………	一八七	「愛の風土」……………	セ	「バジャヤゼ」……………	三七一
△「カルメン」……………	一八六	モンテスキュー		「ミトリダート」……………	四〇四
モーパッサン		「ペルシア人の手紙」……………	四三三	「イフィジエニー」……………	四〇五
「脂肪の塊」……………	三六	モンテーニュ		△「フェードル」……………	四〇五
△「女の一生」……………	二一六	「エッセー」……………	三六	ラディゲ	三三三
「ペラミ」……………	四三二	モンテルラン		△「肉体の悪魔」……………	三三三
「水の上」……………	四三二	△「闘牛士」……………	三三三	「ドルジェル伯の舞踏会」……………	三三一
「ビエールとジャン」……………	三六九	△「若き娘たち」……………	三〇九	ラ・ファイエット	一六四
モラティン		ユイスマンス		「クレイヴの奥方」……………	一六四
「娘たちのはい」……………	四九六	「さかしま」……………	一九七	ラ・フォンテーヌ	一五〇
モーラン		ユゴー		「寓話」……………	一五〇
「夜ひらく・夜とさす」……………	四八六	「エルナニ」……………	三二	ラ・ブリュイエール	二七三
モーリアック		「ノートル・ダム・ド・		ラブレール	二七三
△「癪者への接吻」……………	四八七	パリ」……………	三三六	「ガルガンテアとパンタ	一三三
△「愛の砂漠」……………	五	△「レ・ミゼラブル」……………	四九六	グリユエル物語」……………	一三三
「黒い天使」……………	一六六	「諸世紀の伝説」……………	四九六	ラマルティエーヌ	四六
モリエール		ヨネスコ		「瞑想詩集」……………	四六
「才女気どり」……………	一四〇	「犀」……………	一九二	ラ・ロシュユフコ	四六
△「女房学校」……………	三〇六	ラクルテル			
△「タルテュフ」……………	三〇四				

「箴言録」……………	二六三	「燃え上がる青春」……………	四六七	「オーカッサンとニコレット」…	一九
ランボー……………		ロスタン……………		「ビエール・パトラン先生」…	三〇
「酔いどれ船」……………	四八三	「シラノ・ド・ベルジュ ラック」……………	三二	「千一夜物語（アラビアン・ ナイト）」……………	二六九
「地獄の季節」……………	三三〇	ロテイ……………		アイスキューロス……………	
リュートフ……………		「氷島の漁夫」……………	三九六	「しばられたプロメテウス」…	三六
「テオフィルの奇跡劇」……………	三三三	「お菊さん」……………	九二	「オレスティア」……………	一〇七
ルイス……………		ロートレアモン……………	四五〇	アイソポス……………	
「アフロディット」……………	三三	「マルドロールの歌」……………	四五〇	「アイソポス寓話集」……………	一
ルコント・ド・リール……………		ロブ・グリエ……………	三三	「黄金のロバ」……………	六
「古代詩集」……………	一七	「嫉妬」……………	三三	「アカルナイの人々」……………	三〇
「夷狄詩集」……………	五	ロマン……………		「雲」……………	一五
ル・サージュ……………		「クノック」……………	一四	「蜂」……………	三七六
「ジル・ブラス」……………	二五	「ブシケ」……………	四六	「女の平和」……………	二二〇
ルーソー……………		「善意の人々」……………	二九〇	「女の議會」……………	二一八
「スーヴェル・エロイズ」……………	三六五	ロラン……………		「アエネイス」……………	二
「エミール」……………	八〇	「ジャン・クリストフ」……………	三三〇	「アルケステイス」……………	三三
「告白録」……………	一七三	「魅せられたる魂」……………	四二	「メデア」……………	四六五
ルナール……………		「愛と死との戯れ」……………	四		
「にんじん」……………	三六三	ロンサール……………			
「ぶどう畑のぶどう作り」……………	四二	「オールド四部集」……………	一〇三		
ルナン……………		「ラ・フランシアード」……………	四九		
「幼年時代・青年時代の 思い出」……………	四八三	作者不明……………			
レオバルディ……………		「ローランの歌」……………	四四		
「イタリアに寄す」……………	五〇	「トリスタン・イズー物語」…	三九		
レニエ……………		「狐ルナール物語」……………	一七		

作家別項目表

「アンドロマケ」……………	四〇
「ヒツポリュトス」……………	三九
「ヘカベ」……………	四七
「狂えるヘラクレス」……………	一六
「トロヤの女たち」……………	三三
「タウリケのイビゲネイア」……………	二六
「オレステス」……………	一一
「パッコスの信女」……………	三七
オウイディウス	
△「アモレス(恋愛歌)」……………	三四
「メタモルボセス(変形譚)」……………	四四
ソポクレス	
「アンティゴネ」……………	三九
「エレクトラ」……………	八四
△「オイディプス王」……………	六六
「ピロクテテス」……………	四〇
「トラキスの女たち」……………	三八
テレンティウス	
「アンドロスから来た娘」……………	四三
ブラウトウス	
「捕虜」……………	四六
ブルタルコス	
「ブルターク英雄伝」……………	四六
ホメロス	
△「イリアス」……………	三三
「オデュッセイア」……………	一〇

ホラティウス	
「詩論」……………	二五
ルキアノス	
「神々の対話」……………	一七